

三本松茶屋のエコツアーガイドが考える 自然環境教育(狭義の環境教育)の概念

自然環境教育(=自然生態系教育)とは・・・

- ・ヒトの生存基盤である自然環境(自然生態系)の保護(保存+保全)に向けた生涯教育
- ・人為的に生じた非生物のおよび生物的要素による自然生態系への過剰な負荷を、非政治的かつその時点における科学的正当性に基づいて、可能な限り減らすことを目的とする

【自然環境教育における必須過程】

- 自然体験活動【**気づき**】・・・美への気づき/醜への気づき
- 自然学習活動【**認識**】・・・道具的次元/解釈的次元
- 自然配慮活動【**配慮**】・・・科学的正当性/非科学的正当性

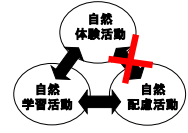
①

【自然環境教育における必須過程】

○自然体験活動【**気づき**】・・・美への気づき/醜への気づき

★「美への気づきと醜への気づき」

- (1) **美への気づき**
→生物種の生態、自然環境の恵みなど
- (2) **醜への気づき**
→人為的影響による物理的改変、一般廃棄物の投棄現場など

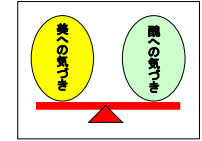


※美への気づきに偏重すると・・・ (美への気づきへの偏重は配慮活動につながりにくい)

「美への気づきと醜への気づき」のバランスを保った自然体験活動の提供が必要

★環境配慮を促す自然体験プログラムの実施(美への気づき/醜への気づき)

↓
地域密着型インタープリターの役割



【自然体験活動におけるバランス】

②

【自然環境教育における必須過程】

○自然学習活動【**認識**】・・・道具的次元/解釈的次元

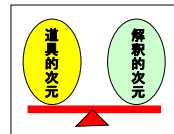
★「認識における道具的次元と解釈的次元」

- (1) **道具的次元**: 知識
- (2) **解釈的次元**: 知恵(判断のもととなる考え)

※道具的次元に偏重すると・・・自己満足で終わる、配慮意識への変革まで至らない

自然学習活動は、道具的次元と解釈的次元のバランスを地域特性に合わせて保つことが重要

↓
★地域密着型ファシリテーターの役割



【学習活動におけるバランス】

③

【自然環境教育における必須過程】

○自然配慮活動【**配慮**】・・・科学的正当性/非科学的正当性

★「自然環境の持続性(科学的正当性)」

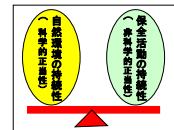
と配慮活動の持続性(非科学的正当性)」

- (1) **自然環境の持続性**: 科学的正当性が問われる
※科学的正当性に偏重すると・・・自然環境の持続性は高まる ↔ 配慮活動の持続性は低くなる

- (2) **配慮活動の持続性**: 科学的正当性が問われない=非科学的正当性に偏重すると・・・
※非科学的正当性(感情論、悪影響を与える慣習など)に偏重すると・・・保全活動の持続性は高まる ↔ 自然環境の持続性は低くなる

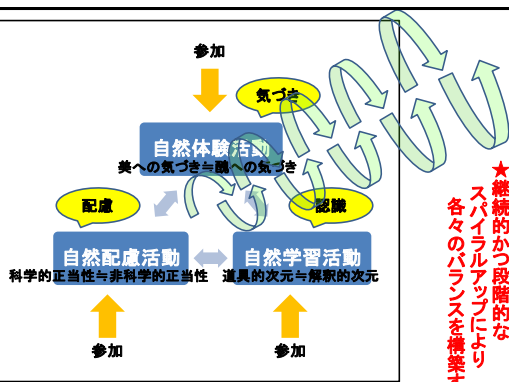
自然配慮活動は、自然環境の持続性(科学的正当性)と保全活動の持続性(非科学的正当性)のバランスを地域特性に合わせて保つことが重要

↓
地域密着型科学コミュニケーターの役割



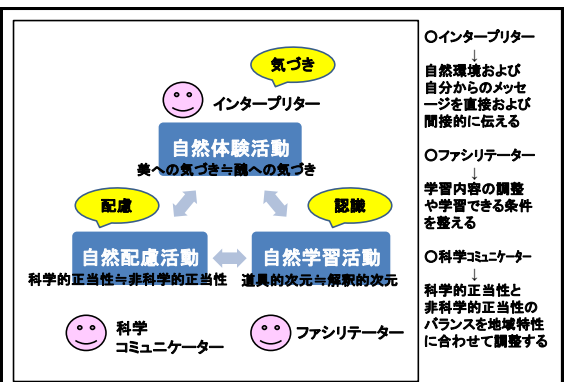
【配慮活動におけるバランス】

④



【自然環境教育(狭義のEE)のモデル】

⑤



○インタープリター

↓
自然環境および自分からのメッセージを直接および間接的に伝える

○ファシリテーター

↓
学習内容の調整や学習できる条件を整える

○科学コミュニケーター

↓
科学的正当性と非科学的正当性のバランスを地域特性に合わせて調整する

【三本松茶屋のエコツアーガイドが担う3つの役割】

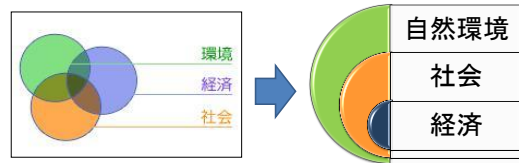
⑥

三本松茶屋が考える 人間環境教育(広義のEE=ESD)の概念

人間環境教育(持続可能な開発のための教育)とは・・・

- ・その人にとって大切なものを守るための能力を育むための教育
- ・自然環境教育は、ESDの根幹を担うが、すべてを含むわけではない

⑦

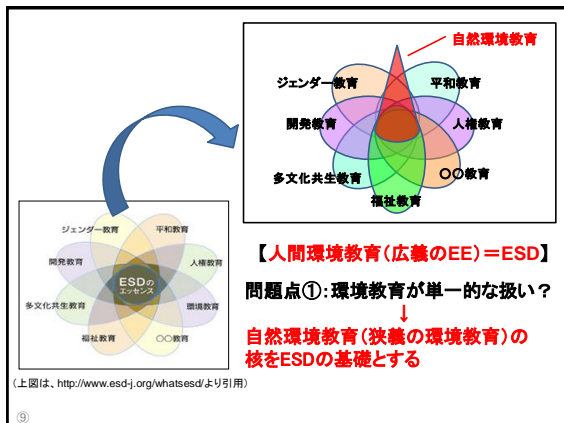


(上図は、<http://www.esd-j.org/whatsesd/>より引用)

- 問題点①: 環境・経済・社会の位置づけが不明確・・・
- 問題点②: 現在のライフスタイルの変革を重要視していない

↓
自然環境が基盤となり、社会・経済が成り立っていることを認識する必要がある

⑧



【人間環境教育(広義のEE)=ESD】

問題点①: 環境教育が単一的な扱い？

↓
自然環境教育(狭義の環境教育)の核をESDの基礎とする

(上図は、<http://www.esd-j.org/whatsesd/>より引用)

⑨